

静岡1/2

No.	ご意見・ご感想
1	輸入牛肉のBSE関係(SRM含)の安全性の検査体制を明確にしていきたい。
2	説明内容が農水、厚生労働省等ダブル面が多い。それぞれの立場をもっと明確にして欲しい。安全委員会を理解するだけでなく、今後の方向が欲しい。生産現場と流通・と蓄現場をもっと見学、理解した中で方向を出す、行政指導を出すべきである。時間が少ないので質問事項は前もって集めた方が良いのでは。その回答だけで講義となると思われる。
3	食の安全安心は、生産をする側と消費する側は特に関心があると思う。生産者と加工業者・消費者が互に理解しあい最後は検査が必要と思う。
4	20ヵ月になると、突然異常プリオンが蓄積するのか。その蓄積のメカニズムが必要(説明が必要)。
5	消費者にはどんな肉が安心して食べられるかどんなマークがついているのが良いか、消費者の立場になった説明がなかった。検査の話ばかりでは素人にはわかりにくい。
6	もごもご話さずははっきりとお答え下さい。とても聞きとりにくいです。
7	意見交換の時間をもっと多く取らなければせっかくのリスクコミュニケーションの意味がなくなると思います。又、たった3年間の状況だけを見て中間報告をする意味がよくわかりません。BSEの全容がまだわかっていない以上、全頭検査を続けるのが当然だと思います。
8	・BSEのELISA検査結果の陰性(-)は、健康若しくは検出限界以下であることが国民に理解されていないので、早急に周知する必要がある。当該事項が理解されれば、米国からの輸入及びELISA検査対象月齢についても理解されるのではないだろうか。・BSEの未検査の国からも現在輸入していることを周知すべき。・未発生国は、未検査の国が多いことを周知すべき。
9	○やはりBSEの原因が明確にわからないのですから(断片的事実のみで20ヵ月以下発症していないので検査中止する事について)、全頭検査を継続して欲しい。○ピッキングの100%実施。○混合飼料の安全性の確立を。
10	早く格安の牛肉が市場にでると良いですね。日米交渉早く解決したいですね。
11	米国の解禁で担保できるか心配である。
12	アメリカのように広いところで飼育している牛が20ヵ月かどうかどうしてわかるのですか。
13	時間が短く進行が早すぎた。
14	ごまかされた気がします。政治の情勢で動いているという気がしていましたのでその通りだと思いました。米でなくてアメリカでなくて国民の方を向いて政治をしてほしい。
15	BSEの件は大体知りましたが実際に人への影響により病気が発生しているのか？データがあるのか？牛の事については報道されているが人の事に関しては全く知らせがない。はっきりしてほしい。
16	説明を聞いて、やはり結論先にありきと思いました。科学的なデータを都合の良い時だけ使っているとしか思えない。基本的には行政・政治不信がベースにあると思います。
17	説明をきき、実態はよく分かった。その分余計不安が高まった。統計的な誤差の範囲に20ヵ月、21ヶ月はあるようにみえる。全頭検査続けるべし。
18	・肉以外のリスクについてもよろしくお願い致します。・生産者保護の視点におもむきを置きすぎた施策にならぬようお願い致します(SGとかBSE対策についても)補助金のあり方。・食糧自給率があがっていくよう政策を出して頂きたい。
19	形式的すぎる所が多く、意見の反映につながるのでしょうか？
20	生産現場の立場に立って、発言、行動することをもう少しお願いしたい。
21	会場が少しせまかった。
22	農林水産省のBSE根絶のための飼料規制の説明を最初に行い、BSEの各国発生状況を、また、異常プリオンの特性等を知識として取得してから、食品安全委、厚生労働省が説明する順番の方がわかりやすい。

静岡2/2

No.	ご意見・ご感想
23	農、厚省を通して細かい所まで安全対策に力を入れ、今日お話を聞いて本当に安全100%の様に感じました。でも一般主婦の間では安全性をどの程度わかっているか…、理解出来ないので牛肉を使用する人が少ない様に思えます。消費者に国内対策を広く知ってほしいと思います。
24	ある程度のことまでは新聞、テレビなどでわかって知っておりますが、いつも不安の中でのなるようにしかならない、といった生活にながされています。これからのためには、悪い物、良い物にしっかりと規制をして下さい。
25	米国からの輸入は科学的に対応して欲しい。
26	・当局の話が中心であり形式的な説明であった。・質問や意見も一方的であり、もっと多くの人の意見を聞くべきである。・進行者が難しい質問を取り上げ当局に説明させている。自分達のマスターベーションではないか。
27	休憩時間に出した質問にすべて答えてもらいました。良かったです。
28	もっとたくさんの消費者が聞くべきであり、知る必要があると思われる。
29	米国牛の輸入は早期に再開してほしい。消費者の判断に委ねることも必要ではないか。
30	規制が、米国よりということをめぐいきることはできなかった。

長野1/2

No	ご意見・ご感想
1	ピッシング背割り方法や脊椎の吸引など、日本のと場での対策状況の把握、公表を急いでいただきたい。SRMの除去・廃棄の徹底がされているのであれば、どこの国の牛肉でも安心できる。全頭検査をやめることによるコストをフィードバンの徹底、SRM除去の管理にまわすべき(段階的に他の規制の進捗とあわせて全頭検査は統計学上有用な数字にまで減らすべきである)。
2	BSE検査を21ヶ月齢以上にするについては絶対に反対です。厚生労働省の説明資料P27について①21、23ヶ月齢の異常プリオンたん白質の量が他の感染牛に比して微量であったこと—これは2頭限りのデータであり、信頼に値しないこと②350万頭の検査—あくまで過去の検査の結果である。これをもって20ヶ月齢以下のBSE感染牛が将来に向かって確認できないという確証とはならない。まだまだBSE自体に不明の点が多いという現状の中で検査月齢を下げるという事は国民の理解は得られません。「疑わしきは食せず」が基本です。アメリカからの牛肉の輸入再開についても、国内同様全頭検査とその結果の公表を義務づけるべきです。貿易においても買手の要請に応えることが基本であると考えます。最後に食品安全委員会への要望です。政治とは距離を置き、委員自身あるいは御家族の食の安全を守るという視点で厳正な方向づけを国民(消費者)の一人として、大いに期待いたします(検査月齢の引下げは、アメリカからの輸入再開を容易にしようという政治の意図が見えかくれしているように感じられてなりません。委員長はじめ委員各位の健闘を願っております。食の安全先進国を目指して…)
3	規制を緩和するのは難しいと感じます。
4	良い会になりました。開催を感謝します。これからも続けて欲しいと思います。
5	安全は科学的にタンポされるが、安心は国民の理解のなかでうまれます。20ヶ月以下検査を削除することについて反対は60%を超えています。是非全頭検査を望みます。
6	安全=安心にはならない。全頭検査を堅持し、外国に対しても検査済のものが輸入されるシステムを構築されたい。
7	会場全体が黒っぽい。参加者の多くが行政や会社関係などからの参加だったのではないかと消費者や農家の参加がしやすい手続き、場所、時間であったのか疑問である。また食安からの講演は、プレゼンテーション技術の向上が望まれる(スライドが細かく、見づらく、まとまってないものが多かった→きれいなものが役目ではない。伝える力が必要。シンプルに)。
8	・信頼を得られる体制をお願いしたい。
9	○アメリカにおける月齢判定を徹底的に評価されたい！○国内の取り組み周知徹底を！
10	SRM除去によるリスクの担保ができるなら、検査は必要あるのか。
11	専門用語が多くわかりにくい。
12	牛だけではなく羊も食用にされているが、これらの食肉についてもどのような対応がされているかわからない。輸入牛については、検査した物のみ輸入すれば良いのでは。
13	参加でき感謝します。国内対策&充実した中で、輸入牛肉についても同レベルでのハードルであってほしい。
14	◎説明部分は今までに公表されており、もっと時間が短くても良い。◎何をリスクミしたのか。・熱心な理解を求める姿勢が見られない。・ただ内容を伝えたという感じ。
15	20ヶ月未満の牛がどのくらい流通しているのか、ピッシング以外のと殺方法はどんな方法なのか、全頭検査か20ヶ月未満カットかの結論はいつ出すのか等を聞くことができず残念でした。
16	食品安全委員会が施設され、国民の食に対する安全・安心を確保するため今後ますますご奮闘よろしく願いいたします。
17	地方に出かけて意見交換会を開くことは評価します。しかし、すでにBSE対策の見直しのルールがひかかれている状況でこのような会を開くことは、単に「開き置く」という意図が感じられます。もっと早い段階で、このような場をつくるべきだし、全頭検査の継続という意見が多ければ政策を見直すべきです。
18	説明が早く、一般の人にはわかりにくいのでは？と思った。
19	①配合飼料での輸入はあるのか？原料に、BSE発生国由来の肉骨粉が使用されているということはあるのか？原料の届出をするにしても、だれがその内容をモニタリングするのか？②BSE対策見直し時期は、米国でのBSE発生とかさなり、一般的には米国からの牛肉を輸入再開のための見直しという印象がぬぐえない。
20	アメリカの圧力により20ヶ月齢を検査対象から除くことは反対。全頭検査を今後とも継続してほしい。

長野2/2

No	ご意見・ご感想
21	1. 国民、生活者、消費者等への安全委員会としての教育、宣伝をもっとすべきだ(HP以外で)。HPがみにくい。もっとみやすくわかりやすい工夫してほしい。2. 流通業者、加工業者、販売業者等のトレーサビリティシステムの国民に対する情報公開と監視態勢の強化。不正表示等があとをたたない状態の中では安全委員会やトレサビシステムそのものに不信感がもたれる。
22	100%の安全な食品はあり得ないと考える現在、ほんの僅かなリスクも入りこむ危険は避けてほしい。国民が自衛策を講じ得ない部分を作り出さない様に願う。消費者への周知徹底が全く不足。
23	BSE検査はずっと続けてほしいと思う。原因がまだ不明な点だらけだから消費者としては不安だ。
24	出席者の方々は仕事として一生懸命取りくんで居られると思いましたが、アメリカの圧力に屈せず日本の子供達の為に力をそそいで欲しい。あの狂牛事件の起った時、大臣が焼肉を食べて「うまい、うまい」などと云ったバカみたいな事をしないでほしい。
25	食品安全委員会に期待していることは大です。各省での提案事項について、生産者・消費者両方の立場を考えて私たち消費者が安心して食べられる(生活出来る)ようお願い致します。
26	安全な食品をのぞんでいます。
27	意見陳述の時間が少ない。論点をぼやかしている。
28	今後も地方にてのリスクコミュニケーションを開催していただきたい(回数を増やして...)。国民の方(消費者)の意見の反映も宜しく願います。
29	・長野に来ていただきありがたかった。これからは度々来ていただきたい。・20ヵ月以下の検査はなぜ3年なのか？(3年以内に他に方法があるという事なのか？)(3年後は混乱しないという事?)・牛肉も高いが子牛の値も高く購入できない。廃業近いです。
30	BSE検査月齢の見直しについては、広く国民の意見も聴取して慎重に行ってほしい!
31	農水省の方が説明した内容の中で、BSE感染源について感染牛を飼育していた農家が真実を語っているか疑問だ。肉骨粉を与えていたことを黙っているのではないか。農水関係の調査は甘いのではないか。
32	会場がせまかった。質問時間が足りない。
33	・食の安全、安心を提供するには時間と予算がかかる。・日本独自の体制整備が必要。反論も有るだろうが、一本の基本線を出されたい。・選択制は、良い結果得られず。
34	・ピッシングについては法制化し、実施に移すべき。・脊椎の除去についても法制化し、実施すべき。・アメリカ、英国の発生後の政府の対応、コミュニケーションの方法。
35	20ヵ月以下の牛にも全頭検査を希望する自治体に助成をするという厚労省の説明には納得がいかない。SRMの除去が安全を担保し、且つ全頭検査もプリオンも全て検出しきれないことがわかっているのになぜ「税金のムダ使い」を続けるのか?公共機関が公金を使って行なうことである以上、何らかの科学的根拠が必要なのではないか?
36	専門用語が多く(検査関係について)理解しづらかった。ホルスタイン種にBSEが出ています。乳には栄養が集中してますが、牛乳はBSEは大丈夫なのでしょうか?
37	総合的に考えるとBSE全頭検査は継続すべきだと思う。

山梨1/2

No.	ご意見・ご感想
1	事前参加が確認できる場合は、事前に資料をいただいた方が、意見交換の専門家の話も理解しやすかったと思います。
2	安全100%の食品はないと思いますが、安心して食べたいと思いますので、全頭検査をしてほしいと思います。
3	20ヶ月齢以前はしてもしなくても同じという言うのは、表現としてはおかしいです。異常プリオンが出にくいとのことです が、20ヶ月以前の出荷は禁止にすれば必然的に全頭検査と同じになるとは思われますが。
4	もっと十分なリスクミができるよう時間設定すべき。
5	とても良い機会になりました。新聞などマスコミを通じてしか知るチャンスがないことが多いので、こうしたことはとても必要だ と思う。ここでの結果、成果をまとめたものが欲しい気がします。
6	米国に対して輸入を再開するなら、国内同様の検査(月齢20ヶ月未満の検査等)を要求して欲しい。日本からの牛肉は 輸入禁止されているのですから。平等に行って欲しい。
7	ホルスタインのみの発生～肉骨粉のみでなく、代用乳についても精査して安全を確保して欲しい。
8	輸入に頼らず自給できるような農業政策を目指して欲しい。
9	資料が多く、出欠を採っているのだから事前に読めるようにして欲しかった。講演も資料を読んでいるだけのようであった ので、事前に読んでいればもっと短時間ですんだのではないか。また、質問も事前に用意できた。
10	資料の表を読み上げるというのではなく、専門家なので資料を参考として講演がして欲しかった。
11	私たち消費者が安心できるよう、全頭検査と飼料規制と全月齢からのSRM除去の継続をお願いしたい。また、情報も欲 しい。
12	講演は時間不足の為か、やや早口で聞きとりにくかった。私たちに理解をして欲しいと思ってお話していると思えなかつ た。
13	危険か否かわからないものを市場に出してもよいという考え方が分からない。微量であっても検出できる方法を開発して いくことを考えて欲しい。3年間の全頭検査でのデータでは充分ではないとも思う。
14	確かに100%の安全性は望めないだろうが、より安全なものをという姿勢がみえない。
15	アメリカの要求に屈せず日本国民の健康を守るという立場で、アメリカ牛の輸入再開は慎重をお願いします。
16	この交換会は、そもそも全頭検査をしなくてもBSEは安全だから21ヶ月以上の牛から検査をしたいという、中間とりまど めを一般の人々に理解してもらいたいという立場で行われているので、その流れに沿って聞いていると「行政のおっしや る通り」という感じでした。
17	学習を重ねている者には理解できるが、一般の人達対象にはもっと分かりやすい情報の提供をお願いしたい。また、消 費者の理解を深めるための支援も併せてお願いしたいと思います。
18	何回か色々の方から説明を受けましたが、もっと関係者(生産者、消費者、流通関係者、行政、知識者等)間のコミュニ ケーションが必要かと思えます。
19	トレーサビリティ等についての話をも入れて欲しかった。
20	県レベルの説明会も必要ですが、末端の自治体での開催をも考えていただきたい。
21	食の事については勉強はしているつもりですが、もっと消費者としてはもう少し分かりやすくとも思います。また、トレー サビリティの事などです。
22	トレーサビリティについての説明を欲しかった。
23	輸入牛肉の場合、広大な牧場での出生年月日に疑問。消費者は安い値段で買いたい。国産物のような安心安全は持て ない。
24	資料3のP5の乳用牛のライフサイクルに、母乳のほ乳は生後3～5日間とあるのに驚いた。子牛の免疫性について不安 を感じる。
25	3年間の取り組みは評価できる。ただ、農水省、厚労省の方は、その前の数年間のBSE対策はどうだったかは忘れない でもらいたい。
26	国の方は、もう少し国民の為に働くという姿勢(農水省)をもっていただきたい。上から物を言う様な姿勢が感じられた。
27	甲府で開催していただきありがとうございました。直接説明していただくことで良く分かりました。

山梨2/2

No.	ご意見・ご感想
28	具体的にBSEの肉を食べたらどの様な病気になるのかよく分からない。現在売られている肉は安心して食べられるのか不安な気持です。
29	説明者は画面を読むだけでなく、自分が良く把握た事を説明して欲しかった。
30	私は高齢者なので日頃あまり肉を食べません。若い人達が勉強することを勧めます。
31	国産牛しか食べれない事が理解出来た。
32	横文字が多くて難しかった。ようやく理解できた。
33	化学肥料を使わず放牧で育った牛が多くなると良いと思うのですが…
34	国内のBSE対策については、今日の講演を聞いた限りでは現段階で精一杯の事をしていると思うので安心している。海外のBSE対策については不安であるが、消費者が安心できる対策を国内でとってもらいたい。それでないかと安くて安心して輸入肉を買えない。
35	専門用語が難しく理解しなければと思い努力が必要だった。
36	やはり日本の上に立つ人が正義を持って正しいことを行ってやって欲しいです。アメリカから輸入してくる肉は検査していないので、許してはいけないと思います。
37	日本では地方自治体に検査をまかすようですが、そんなことをしてはアメリカ産を入りやすくしてしまうのでやめて欲しい。(国で検査をして欲しい。)
38	食の安全って大変だなあとします。自分で作って自分の口に運ぶのが一番理想なのではないでしょうか。キャベツ、大豆等の作物を作っても外敵(昆虫等)には勝つことができないので、最低の消毒をしてしまう。消毒しなければ他者に配分することができないので。
39	食べ物がいまにも溢れている日本。これが本当に豊かなことなのか疑問に思う今日この頃です。というのも、本当に安全な食べ物は、私自身ごく限られた一部(しかも割高な場合が多い)と認識していますが、肉、魚、野菜はじめ、それらを育てる飼料、肥料及び成育方法がいまにも効率性を重視した結果が、本来、手間暇、お金をかけてなされるべきものをゆがめてしまったのではないのでしょうか。
40	牛もそんなに日常的に口にできないものであったはずなのに、安価で無理に大量に出まわるとな流通になった為、簡単に口にできます。そんな流通業界の考え方の改善も今後長い目でみた場合、大事なのではないのでしょうか。
41	データを出すのは大変なことです。私達が安心して食べられる肉が店頭にあることをお願いします。
42	甲府市で開催された意見交換会配布資料中に類似の図版が使用されている。どこかで作成された同図版を借用して作成された資料が配付されては、何となく信用が低下すると思う。それぞれ別の組織が作成した資料なのですヨ！！ ・農水省消費安全局＝BSEの発生サイクルとその遮断 ・食品安全委員会＝現在使われている人へのリスク回避措置 ・食品安全委員会事務局発行：食品安全2004特別号＝P5上段の図
43	無意味でした。
44	確定した結果が欲しい。
45	安全な食品を求める消費者団体の方の意見は素直なものだと思いますが、リスク回避の為には必要な対価を払う必要があるということ、消費者側を向いてもっとアピールすることにも活力が必要
46	農水省の答えが長すぎる。一般消費者(主婦)には内容が分かりにくいのでは。
47	食の安全・安心についてもっと多く聞けると思ったが、BSEのみの話が長すぎる気がする。
48	BSE検査に係る全体的な費用と20ヶ月以下の牛の経費はどのくらいか説明した方が良い。
49	稗田限界である20ヶ月以下の費用をリスクの軽減に向けた施策に向けて欲しい。費用対効果を正しく分かりやすく説明して欲しい。
50	食の安全・安心のためは、今後もこのような企画を継続して欲しい。
51	主催に県名は不要ではないか。実質的になにも県からは出ていない。

新潟1/2

No	ご意見・ご感想
1	食品の安全について興味があり、参加しました。丁寧で大変よかった。牛の赤ちゃんも早くからオツパイ飲めないとかーホルスタイン牛は数ヶ月飲ませるなど、生れた牛も大変だと云うことも知りました。でも正しい知識を少しもらい感謝でした。
2	机を用意すべきではないか。意見交換の時間が短い。
3	1、なぜアメリカの全頭検査を日本として徹底させられないのか。はっきりと日本の意志を伝えて実行してもらうことが大切である。2、自然食品を食するように(手数がかかっても、昔のように)科学、(化学も)を用いない食品を食べたい。
4	BSE問題に関する今までの経過や、現在の体制について、とても良くわかった。特に日米間の牛肉輸入状況に関してポイントを知ることができ、参加して良かった。BSE以外についての食品意見交換会を今後、より多く実施して頂きたいと思う。
5	12/8. 村とJA会場で村の消費者会員、村と牛を食べる会に参加して、「牛」のことについて、少し勉強させて頂きましたが、生産者がどこまで法律を守っているか、検査機関の徹底とかが、少し、心配になりました。
6	牛肉のみに限らず、輸入に頼らない食糧確保(生産振興)の政策を推進すべき。「安価」だけの追求でなく、生産者の利潤確保のための政策を導入し、生産振興を図るべき。
7	意見交換会を開催することにより、全頭検査をやめることやアメリカとのダブルスタンダードは、国民は理解できていない。
8	駐車場の確保できる会場で行ってほしかった。・テルサや全農等。
9	「食の安全、安心」を得るために、これからも食品安全委員会の活動に期待しております。情報公開、今後もお願いいたします。
10	このような会を東京中心ではなく、各地方で、回数と時間も増やし、実施し、国民の安心感を形成することに努めてもらいたい(双方向性を得ることが必要であり、大切だ)。
11	会場が狭い。メモが取れない。→なぜか?
12	BSEの発生メカニズムの究明、迅速高感度(生前検査)の検査法の確立、及び、VCJDの治療法の開発を望みます。
13	会場がせまい。
14	・BSE検査のさらなる充実と継続を要望する。・死亡牛のBSE検査の継続と生産者の負担を少なくするため、死亡牛事務費の補助の御願を要望する。
15	輸入食品が増えている現在、私共の仲間(消費者団体)では関心も皆あり、体に良いものをと云う考えですが、沢山購入なさる若い人々の食のみだれ、安ければ?と云う一部の人、情報が不足と思われます。比のような会がもっと手軽に沢山あったら良いと思われます。とても参考になり良かったです。
16	真の情報を早急に伝えていただきたい。
17	レンダーである。牛・豚・鶏処理ラインがあれば分離処理可能であるが、現在1ラインで豚・鶏混合肉骨粉を製造している。ラインを増設するには、会社として体力が無い。豚の規制が解除される方向とのことであるが、豚・鶏の混合原料で処理した肉骨粉を製造・販売が可能にしてほしい(ただし、排出者に牛の汚染されないような規制をとってほしい)。
18	事前に質問・意見を募ってもよかったのではないかな?
19	全頭検査は継続すべき。
20	・食品の安全について、国・行政の対応を信頼せざるを得ない。頑張ってもらいたい。・輸入食品の検査を厳しく(細かく)実施し、情報を国民(消費者)に公表してもらいたい。
21	・今後の検査対象月齢基準により、国の対応への不安。・VS牛輸入再開への対応の1つに上記があてはまるのではないかな?
22	・この形式では、コミュニケーションとは言い難いのではないかな。レクチャーにすぎない。・会場が狭い。タバコの煙。

新潟2/2

No	ご意見・ご感想
23	専門家の講演はあまり時間がなく、プリントとの説明のみのような感じだった。プリントを次から次という様な感じだった。あとでゆっくり見直しをしたいと思います。
24	検査対象月齢21ヶ月齢以上と判断しているが、今後の動向によっては変化することも考えて、常に注視して行く必要があると考える。輸入牛肉についても、国内検査水準と同一でなければ安全であると判断はできないと考える。
25	別紙に質問、お願いを書きましたので…。
26	食品・食肉産業発展のため、米国产牛肉の輸入再開は必要と考えるが急ぐ必要はない。月齢確認等含め、安全が確認出来た時点で消費者理解が得られる様に。
27	会場がせまいです。机もほしいです。椅子と椅子がぴったりくっついているので窮屈でした。
28	全頭検査を実施したことにより、国民の信頼を得ることができた。よって、今後も全頭検査を継続すべきである。
29	安全という視点から考えると、現行の政策は「やりすぎ」であると思う。安心を与える為には、政策の実施だけ数をこなすのではなく、マスコミとの協力など、アピール方法を工夫してもよいのではないだろうか？分かりやすい講演・資料、ありがとうございました。

No.	ご意見・ご感想
1	・司会の方が何をおっしゃっているのかわかりにくく困りました。活舌の良い方をお願いします。・全体的にお答えされる方がはっきりした口調ではなく聞き取りづらい。わかりにくい話をよりわかりにくくしない様にして下さい。
2	進行の話がほとんど聞き取れなかった。またパネリストの話も、ポイントをつかみきれずに解りづらかった。輸入代用乳の血しょう蛋白についてはどの様に考えていますか。血液からの感染は？ありますよね。スモール牛の代用乳が論じられない飼料管理は問題でしょう。
3	意見交換時における講演者の応答:ただ、もう少し少人数で一旦質問を切ってから答えた方がよいのではと思いました。
4	引き続きリスクコミュニケーションの努力をお願いします。
5	・食品安全委員会の本会議が信頼できません。委員が決定した経緯はHPのどこを見ればわかるでしょうか？罷免制度も作って下さい。また、消費者の代表とも言えるような立場の人が一人も入っていないことにおかしさを感じます。・輸入食品と健康・医薬品、海外旅行、赴任者の暴露リストを含めたより正確というかまともなvCJD発症リスクを出して下さい。と言うか、今の取りまとめ案にある穴だらけの計算数値を削除して下さい。・十勝でBSE発生をさせないために生きた牛をレンダリングに放り込んでいたという告発意見があったが、確認しろとは言わないが今の予測計算は甘すぎるのではないか。当時の酪農雑誌は1日340gの肉骨粉と100gの血粉を牛に食べさせることを推奨していたとある。30万～40万の死亡牛が検査されず、素埋め事件も多数あった。また、国の飼育指導書の94年度版も肉骨粉バイパス飼料を推奨していたそうです。中間とりまとめの甘い計算、削除して下さい。誤解を招きます。・カナダで3頭目の牛が出ました。米国に年間170万頭の牛を輸出していた上に、カナダへ輸出した植物性飼料の60%から動物性蛋白質が検出されています。EUの新評価を無視しないで下さい。・EUの新評価(EFSA?)の翻訳を食品安全委員会のHPに掲載下さい。日本のBSE発生・拡大は、国がEU評価を無視したことにもあります。同じ轍を踏まないで下さい。また、プリオン専門委員会でも取り上げて下さい。・プリオン専門委員会の〇〇先生の意見だけが特に、他の11名の委員の意見と異なっている(少数意見、個人的意見)なのに、他の多くの委員の意見が反映されないのは何故ですか？・議事録のHP掲載が遅すぎるので、少なくとも1ヶ月以内にUPされるようにお願いします。9月、10月分が年を明けても載っていません。・月齢区切りはナンセンスだというプリオン専門委員会の意見を取りまとめ案に速く反映させて下さい。
6	食品安全委員会はBSEが引金になって成立したようなものと思っていますが、我国で初めて公正な立場で意見を言う機関が出来たのは画期的な事です。昨年10月に中間報告を出した時、マスコミの報道の仕方もありますが、政治家が票だけのためのもっともらしい発言があったり、各都道府県でも今まで通りの全頭検査をすとしてたり、それに対して国は資金を出すと言うことでは何をかいわんやである。BSEに対する国民の不信感、行政の不手際があったことによるという事を忘れてはならない。安全委員会の頑張りを期待すると共に、もっと宣伝が必要ではないか。
7	食品安全委員会は、消費者の事を実をたいて考えてないという事が、本日の会で良くわかりました。役所というのは反応も遅く、変わってないですね。司会も良くない！！
8	今後は外務省関係者及び文部科学省担当の出席をお願いしたい。英国BSE発生から15年以上もたっているのに、日本の食品安全対策は後手後手になっている。各省庁の現実レポートをもっと開示してほしい(対策資料ではなく実行資料)。
9	牛肉を食することは大丈夫なのか、不安は無いのかを明確にして欲しいです。BSEをなくす体制よりも食べていいのかをはっきりとして下さい。
10	食の安全に関しては慎重な評価をお願いしたい。
11	肉骨粉飼料の全面的禁止後の飼料規制の実効性が保証される様に、行政のチェックはどの様になっているのかが知りたかった。また、飼料製造業者の数の把握についてしっかり管理して欲しい。若令牛は肉骨粉飼料禁止後の生まれである交差汚染の可能性も否定できないので、チェックを引き続き行うことが重要である。
12	消費者は安全な食べ物を食べたいからの一言です。安全委員会は頑張ってください。
13	・輸入について、検査がきちんと出来ているのか疑問です。人員が充分でないように聞いている。・決めたことは大変良いと思います。米国に対しても、きちんと態度はとって下さい。そうでないと意味がなくなる。
14	BSE検査の月齢見直しのみが先行しているので、信頼を得られないのではないかと？月齢見直しよりも先に、SRM除去対策強化や飼料規制強化が先に立たないと納得性を得られないと思う。SRM除去や飼料規制は、リスク評価を待つまでもなく、強化しても誰も不利益をこうむらないのではないかと。

東京2/3

No.	ご意見・ご感想
15	<p>まず第一に、参加者のある程度のレベル合わせが必要ではないかと考えています。「一定の基準を設ける」などの様に、必ずしも排他的にする必要はないとは思いますが、参加者は大きく2層化しているように思います。私自身も十分には理解していない一人ではありますが、事前に目を通していく資料などを示してDLできる様にすれば、初歩的な質問に割く時間が減るように思います。また、途中から質問が教授になり、特に個人的な感情がずいぶん入っているように感じ、不満です。第二には、参加者の偏りです。私は大学院生であり、この分野に関心がありましたので、今回勉強の為に参加させていただきましたが、例えば大学の講義の一部に組み込むとか、もう少し世代の拡大をはかる必要があるのではないのでしょうか。一番よく牛(を含む)肉を食べ、マスコミに接しているのは、やはり若い世代ですし、彼らの考え方に対してのアプローチは必要だと考えます。最後に、意見交換のセッションにはもっと時間を割くべきだと思います。本日はありがとうございました。</p>
16	<p>質問は質問票のみにするべきだった。この種の会合で発言する人は、短い時間で話をまとめられない人ばかりになる傾向がある。効率よく時間を使って欲しい。どの質問に答えるかは講演者達で決めていたのだから、いっそのこと司会進行は民間人なり窓口業務を長くやってきた人にした方がよい。</p>
17	<p>一方的な質問や回答でなく、反論の場を設けるのも理解を深める方法ではないか。</p>
18	<p>現在の手法ではSRM除去が完全に出来ないとの説明だったが、そうならば現時点での「牛肉を食べることのリスク」はどう考えればいいのか。非常に不安になる。「科学的に言うとなんかリスクはわからない」ということだろうか。研究が進めば不明なことも増えていくのだから、そのすべてを一般に示すことが良いのかどうか。示す以上は、詳細なデータと対策まで示さないと、不安が増すことになると思う。</p>
19	<p>特に農水省の講演について、現段階における検討の状況などの紹介があれば良かったと思う。また三者ともに「異常プリオンの蓄積量が微量なので、20ヶ月齢以下を検査対象から除外してもリスクは増加しない」としているが、その根拠が示されなかった。蓄積量によるリスク変動に関するデータがあるなら、それを示して欲しい。データがないのなら、除外しても良いという事の根拠とはなり得ないのではないだろうか？</p>
20	<p>交差汚染対策と飼料規制が参考になった。</p>
21	<p>継続的に情報公開、意見交換の機会をお願いします。</p>
22	<p>啓発、啓蒙etc. 必要に応じて開催すべし。機会を有効に活かしたい。リスク・ベネフィットのバランス、税金最小消費が望まれる。</p>
23	<p>食品安全委員会のより強い指導力を期待する。</p>
24	<p>意見交換の時間が少ないので、時間配分の検討を。</p>
25	<p>・今後もより一層の一般国民に対するリスクコミ、対策の状況とそれに対する意見・要望の汲み取り・反映を望む。国民、一般市民が分かりやすく全てに伝わる方法を再考し、早急に実施願いたい。・他の食に関する対策についても広く知らしめ、理解を得る努力を望む。</p>
26	<p>意見交換ではなく説明会に近いものである。消費者団体、業界、行政官でのパネルディスカッションをぜひ企画して欲しい。</p>
27	<p>同じリスクコミを全国でやる必要があったかは疑問。ただ、ここまでやっても理解できない団体の意見は無視すべきである。国民の税金は0.1~0.9人というリスクに値しない数値の対策に使うことは、将来を含め日本の国民から反発を貰うと思う。世界の国と同調すれば良いことで、日本の対策は異状。将来、食糧として考えると、食糧供給の面で日本は大きな問題が生じる。アメリカが北KOREAの脅威から守っていること、日本の畜産はアメリカのエサがなければ成り立たないことを皆さんに理解させ、アメリカともっと同調すべき。日本のやりすぎた対策で、世界の食糧事情に非常に大きく影響を及ぼしている。早く改善しないと、日本の畜産はさらに厳しい環境になる。価格は現在バブル的なもの。バブルはいずれ終わる。5~10年後、畜産農家は減滅する。オーストラリアで出たらどうしますか？オーストラリアは羊をたくさん食べている国。牛におきてもおかしくないのでは。そうなる前に、アメリカ含め世界の基準に早く改善すべき。</p>
28	<p>肥料に関して何も検討されていないが、今後どの様になっていくのか？</p>
29	<p>悪意(故意)、過失(錯誤)に対する対策については対策が考えられているが、食品についてはどうするのだろうか。その点が気になった。リスクコミュニケーションと海外で言われるrisk communicationとは異なるもののように感じる。public commentよりもpublic involvementを重視するのがrisk communicationだろう。話はまだ下手だと思う。対策の方向性については、ほぼ賛成できる。</p>

東京3/3

No.	ご意見・ご感想
30	RISKcommunicationの度に、飼料規制やSRM除去のプレゼンをまず前段して必ずやるが毎回あの程度のものが必要か疑問。周知はネットなどで出来る。公の場は意見交換を中心にすべき？
31	講演内容は従来から言われていることを解説したのみで、はなはだ役人的、通り一遍であり熱意のようなものが感じられなかった。それぞれの立場で正反対の意見があることがよく理解できた。食安委の立場は科学的判断しかありえない。リスクコミュニケーションの難しさが明らかとなり、最後は自己責任では？
32	質問者は話を聞かずに自分の意見を強調するだけ。これではコミュニケーションにならず。
33	外圧(アメリカ等の)に負けずに食の安全を貫いて欲しい。食の安全を政治のかけ引きで使わず、せつかく作り上げた日本の安全政策をやめないで欲しい。
34	専門家による講演は、時間の関係で話が早くついていけなかった。意見交換時に、事前に出ている質問について時間を割いていたが、これはペーパーを用意して交換時間をきちんと確保すべきではないか。